明科いいまちつくろうかい!! 編集・発行

回覧

明科いいまち通信

No. 70

安曇野市明科中川手６８２４番地１
明科支所：☎71-2000（代表）　／　明科公民館：☎62-4605

いいまち通信は、WEBでもご覧いただけます。▶
http://akashina.net/localinfo/newslisi

令和４年３月17日 発行

明科うまいもん巡り

第12回　坂　本　屋

坂本屋
店主　小澤 むつみ

東日本大震災を機に福島県いわき市から安曇野市に移住しました。福島では江戸時代から続く旅館を営んでおり、一緒にうなぎ屋も代々引き続いておりました。安曇野に来て、10年になります。2016年6月に明科七貴にうなぎ屋をオープンし、鰻だけではなくヒレ海老御膳や焼き魚御膳もあり、鰻が苦手な方でも一緒にお食事に来ていただけるようになっております。

「ヒレ海老御膳」（￥1,980税込）

一番人気は半重御膳（3,300 円税込）国産鰻のみを使用しています。お客様にゆっくりお過ごしいただく事を心がけております。地元の方には、お祝いや法事、送別会などにご利用頂いております。コロナ禍の現在は、テイクアウトも増えております。明科は、福島と雰囲気がとても似ています。美しい海と壮大な山との違いはありますが、地域の方々とのつながりや、ご近所さんから野菜や漬物などたくさんいただいて、皆さんに支えて頂いてるなあと実感しています。本当にありがたいことです。

「半重御膳」（￥3,300税込）

明科の魅力をもっと知って頂く為にも、店の庭に100年以上昔の荻原神社のお祭りで使用していた親子荷台が置いてあります。
宵祭りを初めて見たときは、灯されたロウソクの炎の揺らめきが幻想的で、感動しました。
これからも、お客様に幸せな気持ちになって頂ける店を目指して、精進していきたいと思います。

坂 本 屋

安曇野市明科七貴10775-1 / TEL：0263-75-9477
OPEN:11:00～16:00 L・0-15:00 / 土曜日 17:00～20:00（予約制）
定休日：木曜日 ・ 毎月第２、第４日曜日

明科コラム

「龍門渕は、世界に誇るカヌーコース①」

安曇野リバープレイヤーズクラブ
大沢　勇治

私が初めて龍門渕公園を知ったのは昭和61年、私はカヌーを趣味にしていて、いつだったか1972年ミュンヘンオリンピックで開催された西ドイツアウグスブルクのアイスカナルという所に世界で初めて造られたカヌースラロームの人工競技場の写真を、当時お付き合いしていた彼女に見せた時「君の話している場所とそっくりな所が明科町にある。」と教えてもらい彼女と一緒に訪れたのが最初でした。

私が半信半疑で彼女に連れられ、龍門渕公園を見たとき、実際にドイツに行った人から見せてもらった映像にあまりにも似ており、衝撃を受けました。

【アイスカナルの人工カヌーコース】

彼女はしきりに「君の理想としているカヌー大会をここで開催してみよう！」と熱心に語ってくれました。私は当時カヌー大会を開催した経験もなければ、カヌー競技に何の成果も実績もない素人同然の人間で、ましてや明科に誰一人知り合いもおらず、頼る人も誰もいない状態でした。「無理だ!」と怖気づく私に「行動してみなくちゃわからないよ？ここにさ、カヌーの人達、日本中からいっぱい来てもらって楽しんでもらおうよ!」彼女は龍門渕公園の自動車が走るコンクリートの端で私の目の前で両手をいっぱいに広げてジェスチャーしたのを今も鮮明に覚えています。

それから一ヶ月ほどして、彼女は「宮沢賢治の世界に浸ってくる」と言い残し、オートバイで東北地方をツーリング中、カーブではみ出してきた大型トラックと衝突事故を起こし、亡くなってしまいました。

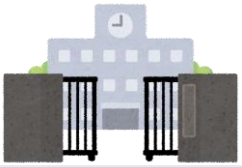
しばらくあまりのショックで立ち直れずにいましたが、当時の親友たちの励ましもあり、やがて気持ちを立ち直らせ、あの時の彼女の「行動してみなくちゃわからないよ？」という言葉を思い出し、亡くなった彼女への手向けの思いも込めて一念発起し、当時の明科町役場産業課に足を運び「あやめまつりのイベントの一環としてカヌースラローム大会を開催させていただけませんでしょうか？」と交渉してみたところ、「面白いじゃないですか、やってみましょう」と見ず知らずの私のような住民でもない者の話を、当時の明科町職員の皆さん達は大変温かく好意的に受け入れてくださり、さらには当時の明科町商工会の皆様や、あやめまつり実行委員会の皆様も快く歓迎してくださり、こうして平成６年６月に明科あやめまつりの行事の一環として「第１回レインボートラウトカップカヌースラローム大会」が開催されたのでした。手探りだらけの慣れない運営はひたすら大変でしたが、地元明科町の皆さんの協力のおかげで何とか無事終わらせることができました。

【龍門渕公園のカヌーコース】

初めて見るカヌー競技大会だったでしょうに、何も分からなくてもご協力いただいた明科町の人達の姿勢に心から感激した私は「なんとかこの大会を通じてカヌーを明科町の地域振興や地方創生に結び付けたい！」と心から思いました。

この時私がこだわったのは「大会の参加賞も賞品も全て地元明科の特産品」にしたことです。この当時カヌー大会の商品などは、カヌー関連メーカーのノベルティやアウトドアメーカーの商品が主流であり、開催地の地元特産品に特化するなどという発想は異例であり、一部の参加者から不満や苦情を受けたりしましたが「地元に経済効果をもたらし、地元特産品のみ！」というスタンスは今も変わっていません。

明科いいまちサロンでは、２月 22 日に明科高校の松村校長をお招きし、「地域とともに、明科高校のいま」と題して講演を開催しました。以下に聴講した感想を掲載いたします。



「地域とともに、明科高校のいま」　を聞いて

現在はコロナの影響により、いいまち発足当初より継続してきた交流も途絶えてしまっていますが、今の生徒たちの学校生活や、明科高校の抱えている問題や課題を知ることができました。

明科高校は開校 36 年目となり、現在の在校生は 252 名で定員に満たない状況です。テニスコートは生徒の活気にあふれた練習の場でしたが、部員数は減り、維持管理が難しく、荒れている実態を映像から知りました。反面、生徒数の減少の中で、明科高校の特色ある学校運営の成果が、生徒一人ひとりの成長の姿として表れてきているという数々の事例をお聞きしました。

私が最も感銘したのは登校時、正門で校長先生自らによる生徒一人ひとりへの挨拶の声がけです。最初は無反応の生徒達が、自ら笑顔で挨拶ができるようになったといいます。教育愛に満ちた先生方との関わりで生徒は心を開き、学校生活は前向きな方向へと転じていったのではないでしょうか。また、中には生徒会の責任ある職務や、地域交流の中で自分の特性が明確になり、卒業後の進路が方向づいた生徒もいたそうです。独自の「明科タイム」という取組みでは、生徒が自立し、生活能力と態度を育成する目的で、自己を見つめ、弱点を克服できるよう、過去の学習の中で力不足の箇所を復習し、基礎学力の向上を主体的に目指しています。ただ問題を解くだけとは違うことがよく分かります。

学歴が全てではなく、社会に出てどのように生きていくのか、「学び」を社会に出ても継続し、人生を力強く歩いて欲しいと願います。校長先生をはじめ、諸先生方の弛まぬ努力で成り立つこの教育環境で学ぶ生徒たちは健全に育つと私は確信します。明科高校の更なる発展、存続を願って共に成長していきたいです。

あかしなこうみんかんからのおしらせ

明科公民館からのお知らせ

Akashina Kouminkan 明科社区中心 아카시나 공민관

JC 05 5月 May ← 3月 March

新型コロナウイルスの影響により、下記のイベント等は中止・変更となる場合があります。最新情報については、**明科公民館(☎62-4605)**までお問い合わせください。

明科の宝 partXI
人と自然が織りなす明科の植生

安曇野市の歴史文化遺産再発見事業実行委員会が制作した「明科の宝」の第 11 回目の講座です。今回は、明科地域特有の植物や自然環境について話を聞きます。

日　時：４月 20 日（水）午前 10 時～正午
会　場：明科公民館　講堂
講　師：松田　貴子（豊科郷土博物館学芸員）
参加費：無料　**申込み：** 不要
持ち物：冊子「明科の宝」をお持ちの方はご持参ください。

いいまちサロン第97回　明科のいいとこ魅力発見

明科を中心に安曇野市の観光情報を紹介してもらい、安曇野市の東口玄関である明科駅の魅力づくりを皆で考えてみましょう。

日　時：４月 26 日（火）午後１時 30 分～２時 30 分
会　場：明科公民館　講堂
講　師：観光交流促進課職員
参加費： 無料　**申込み：** 不要

生活・文化講座　～安曇野風土記Ⅳより～
明科ゆかりの芸術家たち

中村善策、望月桂など、明科にゆかりのある画家や明科地域各所に点在する絵画について、話を聞きます。

日　時：５月 12 日（木）午前 10 時～正午
会　場：明科公民館　講堂
講　師：三澤　新弥（安曇野市文化課職員）
参加費： 無料　**申込み：** 不要

明科図書館からのお知らせ

「図　書　館　の　魅　力　！」

明科図書館長
青木　泰治

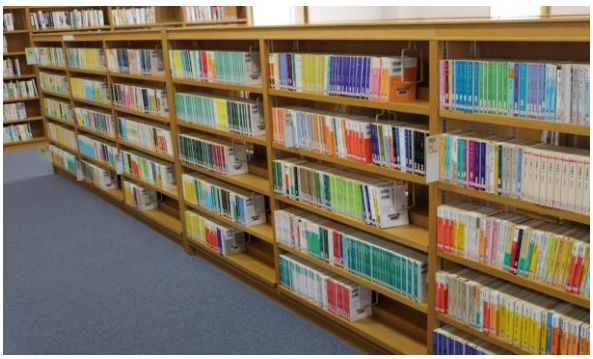
明科図書館には、当然かもしれないが、様々な分野の本がある。絵本や児童書、文学作品の読み物はもちろんであるが、それ以外の様々な分野の本がある。

大雑把に言っても、哲学、宗教、歴史、地理、社会科学、政治・経済、福祉・教育、風俗習慣・民俗学、自然科学、技術・工学、産業、芸術・美術、言語、文学とある。その他にも長野県や安曇野・明科の郷土関係の本があるし、辞書類や全集の類のものもある。新書や文庫もある。旅行関係の本もあるし料理関係の本はたくさんある。雑誌類もそろえてある。もちろん新聞もある。さらにはＤＶＤやＣＤといったＡＶ関係もある。紙芝居もある。漫画だってある。これら合わせて約５万冊の本が明科図書館にはある。新着本といわれる新しい本も随時入ってくる。

その中の例えば「自然科学」の中の『医学・衛生関係』を見てみると、基礎医学、生理学、診断・治療、内科、脳・神経、小児、外科、婦人、眼耳鼻咽喉、衛生学、薬学というように細かい分類に応じて本や資料がそろえられている。このことは他の分野においても同様で、細かく分類が分かれてそろえられている。

図書館を利用してくださる方は様々な目的で来てくださる。自分の好みの文学作品目当ての人もいれば雑誌類やＡＶ関係を探しに来る人もいる。郷土関係の資料を探しに来られる人も。「こんな関係の本はないですか」と趣味や実用書を求めてくる人も。また、子ども達が調べ学習の本を探しにとか…。様々な目的で利用してくださる。

時間があったら一度、どんな本が置いてあるのかじっくりと図書館の隅々を見てほしいと思う。「こんな本があるのか」「こんな分野の本がこんなにあるんだ」「これはおもしろそう」「これは前に見たことある」「こんな分野の本を探していたんだ」等々今まで知らなかった分野や興味がわいてくる分野、知りたいこと、やってみたいこと、調べてみたいことがきっと見つかると思う。それは大げさに言えば、新たな自分の世界を見つけることにつながっていくことだと思う。図書館にはそんな魅力が詰まっている。どうぞ明科図書館へお出かけください。



【文庫本コーナー】

【ＡＶコーナー】

編集後記

・今、くずし字講座を受講しています。主に江戸時代の草書体を読むのですが、たとえにある「ミミズが這っているような字」ですので、なんて書いてあるのかちっともわかりません。この時代に生まれていたら読み書きのできない人になっていたと思います。継続して学ぶことは大切だと思い知らされます。（や）

・最近歯ぎしりがひどいらしく、顎を痛めました。寝るときにつけるマウスピースを使い始めましたが、朝に行方不明になる時があり、その度に大捜索をしています。（な）

いいまち通信の掲載記事を募集します

明科いいまち通信へ掲載する記事を募集いたします。なにか発信したい内容などがありましたら、是非ご投稿ください。

募集内容　住民のみなさまからの記事・文章・写真・俳句・ご意見など

投稿要項・投稿する際は必ず**氏名・住所・連絡先を記載してください**。
・記事内容は、明科いいまち通信編集会議で検討いたします。

投稿方法　①明科支所（明科中川手 6824-1）へ持ち込む または
②Ｅメールで送る ⇒ akashina-shisho@city.azumino.nagano.jp

お問合せ　明科いいまち通信編集担当（TEL: 71-2000 / 内線 760-112）